

「指導と評価の一体化」のための

学習評価に関する参考資料（中学校 社会）の活用ガイド

本ガイドは国立教育政策研究所の参考資料をもとに、先生方が授業を行うに当たり検討する、指導と評価の計画立案の参考となるよう、神奈川県教育委員会・市町村教育委員会の指導主事の協働で作成したものです。

○掲載項目（事例6）

- 1 単元の目標
- 2 単元の評価規準
- 3 指導と評価の計画
- 4 単元における問いの構造
- 5 観点別学習状況評価の進め方

①知識・技能

②思考・判断・表現

③主体的に学習に取り組む態度

1 「見通し」と「振り返り」の機会を設ける、2～5 評価方法、6 評価を行う際の留意点

掲載事例以外の単元でも、本ガイドに掲載されたポイントを参考に、日々の学習指導と評価の充実に向けた授業改善に努めましょう！

○活用ガイドのポイント

- ・観点別学習状況評価の進め方を詳しく解説
- ・事例における学習指導と学習評価のつながりを詳しく解説
- ・単元全体を見通した評価の例を詳しく解説（5）
- ・「努力を要する」状況の生徒への手立てについて例示（5③-4）
- ・「見通し」と「振り返り」の視点からの「**主体的に学習に取り組む態度**」の評価について解説

中学校 社会科 事例を通じた評価の具体例

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P92～101

社会科(公民的分野) 事例6

キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名

「世界平和と人類の福祉の増大」

内容のまとめ

D 私たちと国際社会

(1) 世界平和と人類の福祉の増大

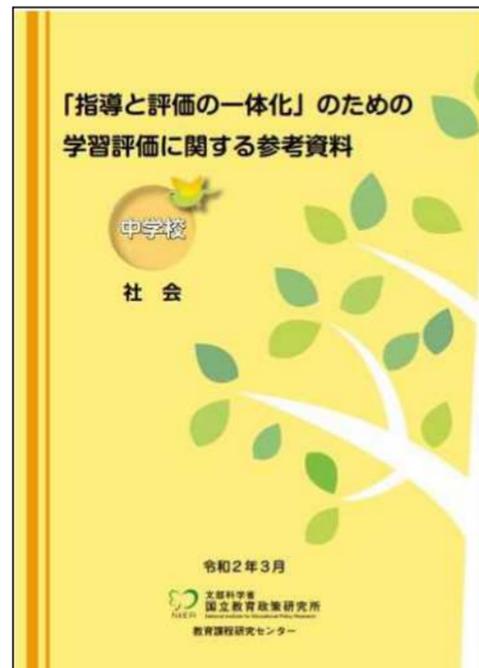
1 単元の目標

対立と合意, 効率と公正, 協調, 持続可能性などに着目して, 課題を追究したり解決したりする活動を通して, 次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

・世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには, 国際協調の観点から, 国家間の相互の主権の尊重と協力, 各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解する。その際, 領土(領海, 領空を含む。), 国家主権, 国際連合の働きなど基本的な事項について理解する。また, 地球環境, 資源・エネルギー, 貧困などの現代社会に見られる諸課題の解決のために経済的, 技術的な協力などが大切であることを理解する。

・日本国憲法の平和主義を基に, 我が国の安全と防衛, 国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について, 多面的・多角的に考察, 構想し, 表現する。

・世界平和と人類の福祉の増大について, 現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを<u>理解している</u>。その際、領土（領海、領空を含む。）、国家主権、国際連合の働きなど基本的な事項について<u>理解している</u>。 地球環境、資源・エネルギー、貧困などの現代社会に見られる諸課題の解決のために経済的、技術的な協力などが大切であることを<u>理解している</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について、多面的・多角的に<u>考察、構想し、表現している</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界平和と人類の福祉の増大について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に<u>関わろうとしている</u>。 <div data-bbox="1274 466 1738 802" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>○学習指導要領の「分野別の評価の観点及びその趣旨」を基に作成します。</p> </div>

○観点ごとの評価規準を作成する際は、学習指導要領に示す「2 内容」の各観点に関わる事項に示された記述を当てはめ、語尾を「…すること」から「…している」とします。

※「主体的に学習に取り組む態度」は「…しようとしている」とします。

3 指導と評価の計画（15時間）

「学習改善につなげる評価」は、授業中における生徒の反応に対して常時心掛けるべき「指導」でもあり、「指導と評価の一体化」の趣旨に留意することが必要です。

※事例では「時」ではなく「次」ごとに設定しているのに注意。

※ ●「学習改善につなげる評価」 ○「評定に用いる評価」

	単元名	時数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第一次	(単元の導入) 国際社会の課題	2時間	●		●
第二次	国際社会の課題と課題への取組① 領土をめぐる問題, 紛争, テロ, 核兵器	3時間	●○	●	
第三次	国際社会の課題と課題への取組② 資源・エネルギー, 貧困などの課題	3時間	●○	●	●
第四次	国際社会の課題と課題への取組③ 地球環境問題	2時間	●○	●	
第五次	国際社会の課題と課題への取組④ 世界の人々の人権の保障	2時間	●○	●	
第六次	(単元のまとめ) 世界平和と人類の福祉の増大のために日本が果たすべき役割	3時間	●	●○	●○

○内容のまとまりの「どの単元でどの観点を見取るか」、「評定に用いる評価をいつ行うか」を事前に計画し、評価規準とともに生徒・保護者に周知する必要があります。
○全ての時間で3観点全てを評価する必要はありませんが、単元全体を通してバランスよく見取るようにしましょう。

※従前の観点「関心・意欲・態度」については、「『関心・意欲・態度』については、表面的な状況のみに着目することにならないように留意するとともに、教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で『おおむね満足できる』状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である」とされていた。このことを踏まえれば、「関心・意欲・態度」の趣旨を継承する「主体的に学習に取り組む態度」についても、ある程度長い区切りの中で評価することが考えられ、単元を越えて評価規準を設定することも考えられる。（『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(中学校社会) p. 37より一部抜粋）

4 単元における問いの構造

○「単元を貫く問い」を軸に、関連する各次の問いを設定することで、多面的・多角的に思考することができます。

【第一次の問い】

よりよい社会を築いていくために、国際社会で取り組むべき課題にはどのようなものがあるだろうか。

【単元を貫く問い】※第一次で設定し、第六次で解決を図る

世界平和と人類の福祉の増大のために、日本はどのような役割を果たしていくべきだろうか。

【第二次の問い】

国際社会は、領土をめぐる問題や紛争、テロ、核兵器の脅威に、どのように取り組んできたのだろうか。

【第三次の問い】

国際社会は、限りある食料や資源の分配と格差、ヒトやモノなどの移動（国境を越えた労働や貿易）などの課題にどのように取り組んできたのだろうか。

【第四次の問い】

国際社会は、地球環境問題にどのように取り組んできたのだろうか。

【第五次の問い】

国際社会は、世界の人々の人権の保障にどのように取り組んできたのだろうか。

5 観点別学習状況評価の進め方①

【知識・技能】 「評価に用いる評価」の評価規準（評価方法）

<第二次>

領土をめぐる問題や紛争，テロ，核兵器の脅威などの課題について，国家主権は相互に尊重されるべきものであるが守られない場合があり，国際連合をはじめとする国際機構の役割が大きくなっていることを理解している。【ノート】

<第三次>

限りある食料や資源の分配，貧困や格差の解消，貿易をめぐる対立などの課題を解決するためには，国家間の協力や各国民の相互理解と協力，国際機構などの役割が大切であることを理解している。【ノート，ペーパーテスト】

<第四次>

地球環境問題に取り組む上で，国家間の協力や各国民の相互理解と協力，国際機構などの役割が大切であることを理解している。【ノート】

<第五次>

世界の人々の人権を保障するためには，国家間の相互の主権の尊重と協力，各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解している。【ノート，ペーパーテスト】

○ノートにどのような記述が見られたらBとするか、Bに達していない生徒に対してどのような手立てが考えられるか、といった明確な評価規準と指導計画を準備しましょう。

○ペーパーテストによる評価を行う場合は、単純な事実的知識を問う問題だけでなく、複数の知識を組み合わせるような、**概念的知識**を問う設問を設けるなどの工夫が必要です。

5 観点別学習状況評価の進め方②

【思考・判断・表現】 「評価に用いる評価」 の評価規準（評価方法）

○第六次では、「対立と合意、効率と公正、協調、持続可能性などに着目して、現代社会の諸課題について、多面的・多角的に考察、構想し、解決策と行動宣言をまとめている」かどうかをワークシートから評価します。

※書くことが苦手な生徒に対して、どのような手立てを準備するのか、事前に考えておきましょう。

(例) 単元末のまとめに活用できるように、各次(時)のまとめを積み重ねる。

【課題】世界平和と人類の福祉の増大のために、あなた自身にできることは何だろうか。これまでに学んだこととあなたの身近な事柄を結び付けて解決策と行動宣言をまとめてみよう。

解決すべきこと（解決すべき理由）

解決策

行動宣言

※「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」では、「具体的な評価の方法としては、ノートとレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる」(p.10)とされています。

5 観点別学習状況評価の進め方③ - 1

【主体的に学習に取り組む態度】「見通し」と「振り返り」の機会を設ける

資料1 「学びのあしあと」(単元で用いるワークシート)

<第六次>

○ 第一次に立てた見通しを踏まえて、学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見いだしている。

○ 単元のはじめに、生徒が「単元を貫く問い」に対しての現時点での考え(これまでの学習を踏まえて)や学習の見通しをもつ機会を設定しましょう。

○ 国際社会や世界平和と人類の福祉の増大について関心をもち、問いを見だし、その社会的意義を記述している。

○ 単元末で、単元のはじめに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見出した内容によって評価します。

学びのあしあと

1 はじめに ～見通しをもって単元の学習に臨もう～

単元を貫く問い
「世界平和と人類の福祉の増大のために、日本はどのような役割を果たしていくべきだろうか。」

現時点での考え (これまでの学習から、「世界平和と人類の福祉の増大」のために取り組むべき事にはどのようなことがあるだろうか。どうしたらよくなるだろうか。)	必要な情報とその情報の入手方法
--	-----------------

2 単元の学習の途中で
(単元を貫く問いについて考えたことや友人や先生の話したことで心に残ったものをメモしておこう。)

3 単元の学習を終えて

この単元の自分自身の学習への取組 (線の上に○を書こう。)

よい	3	2	1	よくない
----	---	---	---	------

今後の学習や生活に生かしたいこと

これからも考え続けていきたいこと(それは、社会にとってどのような意義があるの?)

5 観点別学習状況評価の進め方③ - 2

【主体的に学習に取り組む態度】の評価方法

国際社会に関する学習に対して、

単元末で、単元の始めに立てた見通しを踏まえて学習を振り返り、次の学習や生活に生かすこととして見いだした内容により評価する。

自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組み、

世界平和と人類の福祉の増大のために、

主体的に社会に関わろうとする態度

について評価する。

単元の学習後も関心をもって自ら追究し続けたい、解決、改善を図っていきたいこととして見いだした、問いの内容とその社会的意義の記述によって評価する。

5 観点別学習状況評価の進め方③ - 3

【主体的に学習に取り組む態度】の評価方法

3 単元の学習を終えて

この単元の自分自身の学習への取組 (線の上に○を書こう。)

よい 3 2 1 よくない

今後の学習や生活に生かしたいこと

これからも考え続けていきたいこと(それは、社会にとってどのような意義があるの?)

○今後の学習や生活に生かそうとしている姿がみられるので「B」と判断する。

※「十分満足できる」状況(A)については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり、多様な状況が考えられる。

単元の学習を振り返って、問いに対する取組や学習したことから今後の学習や生活に生かそうとすることを見いだしていれば「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。

例①

「□□さんの意見をもとに自分の考えを修正したところ、修正前よりよいものができた。次の学習でも異なる考えを聞きながら自分の意見を考え直すことを大切にしたい。」

例②

「これからの社会の在り方を判断する際、持続可能性の点から考えることはとても大切だと分かった。これから、自分の子供たちの世代のことも考えて判断していきたい。」

5 観点別学習状況評価の進め方③ - 5

【主体的に学習に取り組む態度】の評価方法

3 単元の学習を終えて

この単元の自分自身の学習への取組 (線の上に○を書こう。)				
よい	3	2	1	よくない
今後の学習や生活に生かしたいこと				
これからも考え続けていきたいこと(それは、社会にとってどのような意義があるの?)				

※「十分満足できる」状況（A）については、生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもってしていると判断されるときであり、多様な状況が考えられる。

「主体的に社会に関わろうとする態度」については、学習した内容やそれに関連することの中から「これからも問い続けていきたいこと（追究していきたいこと）」を挙げるとともに、その社会的意義を簡単に記述していれば「おおむね満足できる」状況（B）と判断する。

（例）

「紛争やテロの問題を解決したい。全ての人々の安全保障が、我が国の安全とも深く関係していると思うので。」

★「参考資料」の「事例4」(p.79)にもワークシートの活用例がありますので御覧ください。

5 観点別学習状況評価の進め方③ - 6

【主体的に学習に取り組む態度】の評価を行う際の留意点

1 生徒が見通しを立てる機会を設ける

単元を貫く問いに対する疑問を挙げたり、予想したりする
課題解決に必要な情報の収集先を考える
関連する既習事項を挙げる

等

2 学習を振り返る機会を設ける

自らの学びの過程を捉える
自らの学習を調整する

教師が生徒とコミュニケーションを取りながら、追究過程において優れていたことや成長が見られた部分、改善すべき部分に気付かせていくことが効果的と考えられる。

3 教師や他の生徒による評価を伝える

成長が見られた部分を気付かせる
生徒同士の相互評価を生かす

教師が評価を行う際に考慮する材料の一つ